

# 四川大地震・四姑娘山登山基地からの報告

今月は緊急地震レポートをお届けします。わりりに「四姑娘写真だより」をお寄せくださっている大川健三さんが四川省大地震発生直後の、四姑娘山山麓にある町・日隆の状況をお知らせ下さいました。日隆は、今回の地震震源地の西60kmにあります。

地震発生時、私がいた日隆では、今だに停電が続きE-mailを使えません。雨が上がって道路の落石が治まった昨日(5月15日)、日隆から西方50km下流にある小金の町に出て本稿を送ります。

## 1. 震源地との位置関係

テレビ、新聞などのニュースでご存知のように、5月12日14:30過ぎ、汶川県南部を震源地にして大きな地震が起き、震源地周辺は強い揺れによる建物崩壊と山崩れで全滅状態になりました。また岷江流域で震源地南側の都江堰市や北側の北川地方等でも大きな被害が出ました。この状況についてはこれまでのニュースで詳しく報じられています。筆者の居住地「日隆」から東側60kmという、比較的近い場所での状況報告です。

## 2. 日隆とその付近の状況

日隆から小金へ行く途中30km位の場所で地盤が弱い急な崖が続いて、この周辺で落石や崖崩れが集中して起きました。地震が起きた時、折り悪く私は小型バンに乗ってこの場所を通過して子供の頭位の大きさの落石の一つに直撃されましたが、運良く助手席の窓とその後ろの窓の間のフ

レームに当り怪我せずに済みました。しかしこの時、近辺で2人の村人が落石のために亡くなったそうで、他の場所でも落石による死傷者が少し出たそうです。

四姑娘山登山・トレッキングのベース基地として知られている日隆は岷江西側の分水嶺で隔てられた震源地の西側60km位に位置しています。四姑娘山を挟んで震源地と隣接しているため地震時には大きな揺れが有り、石積み民家が半壊したり壁や石垣が崩れました。しかし、幸いなことに死傷者は出ませんでした。

また四姑娘山自然保護地区内の長坪溝や双橋溝(溝=溪谷)の奥では氷河が崩れ雪崩や岩崩れが起き、川沿いや山の斜面では所々で小規模な地割れも起きました。しかし、同保護地区内の海子溝や長坪溝の本道では大きな被害はありませんでした。一方、枝谷では岩崩れで道が塞がったり唐松林が岩崩れでなぎ倒されたりしています。地震の後、日隆では雨が



壊れた家の傍に建てられた小屋。



地震が起きた翌朝、避難したテント場で不安な表情を見せる村人達。



テレビを外へ持ち出し自家用発電機に繋いでニュースに見入る村人達。



降ったり止んだりしてさらに地盤が緩み、時々大きな岩が落ちて来て谷間にこたましていました。地震から3日後の15日になってやっと晴れると落石は治まりました。

日隆の発電所は地震で壊れ、修理には膨大な費用を要するため復旧に日数が掛かるそうです。併せて臥龍經由で供給されていた汶川県の電力も、区間の被害が深刻な様子で絶たれているため、電話は半日位しか通じず、長期間電気の無い生活が強いらるかも知れません。



学校が休みになり後片付けを手伝う子供達。



命が助かったので壊れた家の前で比較的明るい表情を見せる父娘と従姉妹達。

当地の歴史書に拠ると、日隆では18世紀中期の金川戦役以後100数年ぶりの大きな地震で誰も経験した事が無く、



2階部分の損傷が多い。



日月山荘でストーブや厨房が有った棟(日月山荘は、'わんりい'メンバーたちが四姑娘山登山で世話になった。他の棟は無事)

多くの村人が強い恐怖を感じています。

### 3. 四姑娘山山麓の長坪村

半壊したり壁や石垣が崩れた民家の被害は地盤が弱い、四姑娘山麓の長坪村に集中しています。ほとんどが2階部分の崩壊で、昔ながらの建築方法に弱さの原因が有るようです。つまり、1階は壁厚60cm位で丁寧に石を積みますが、2階は厚さが減り、石の積み方が雑になる傾向が有ります。さらに石を泥と小石で固めながら積んでいるため、大きく揺れた時に家の四隅に集中する応力に耐えられないようです。現在の四姑娘山の民家の建築基準では、外壁を石積みにする事に決められており、耐震力のある鉄筋コンクリートを使用した建築をしにくい事情があります。この建築基準を見直す必要が有りそうです。

余震が頻発している為、日隆、特に長坪村の人々は壊れた家の整理もままならず、家の外でのテント生活を続けています。村の人は命が助かった事を喜び表情は比較的明るいですが、その一方で家を修理するための資金をどうするか困惑しており、政府の援助を待っています。

成都から四姑娘山山麓に続く道路は各所で崩壊し、不通でしたが落石などを取り除くなど早急に整備され、バスの運行も予定されています。しかし、パンダ繁殖育成基地のある臥龍から日隆を結ぶ峠越え区間の道路はまだ不通です。

四姑娘山付近の村人が本気で心配している事は、今回の地震のために観光客が2～3年来なくなり、10年前の貧しい生活に戻るのではないかと事です。村人は今年も多くの人が四姑娘山を訪れてくれるよう願っています。

#### ● 四川大地震・支援コンサート開催いたします

7月24日(木) 時間 19:00 ~

於：町田市民フォーラム・3Fホール

詳細は、(17)ページをご覧ください。



## 四川大地震・四姑娘山登山基地からの報告 II

成都から四姑娘山登山基地・日隆にいたる道は、丹巴ルートに続いて夾金山ルートも通れるようになり、バスも走るようになりました。但し、バスのチケットは窓口では販売されておらず運転手から直接買います。

また、政府から食料や衣類が援助されるようになりました。また、汶川県からの電力は絶たれたままですが、5月25日現在、発電所は修理されて電気が供給されるようになりました。また、電話もほぼ一日中繋がるようになりました。

一方で、日隆・長坪村では70%位の民家が半壊したり壁や石垣が崩れ<sup>\*</sup>、現在、テントでの避難生活を続けています。震度の大きな余震が続いていますのでテントでの避難生活が長期化する可能性があり、壊れた家から持ち出した生活用品も増えてテントが手狭になりました。テントの不足が問題になってきています。

なお、余震が収束した後、壊れた家を修復することになりますが、観光客の激減により村の収入が減り、10年前の水準に戻ることが予想されます。修復

資金の調達には村人にとって大きな負担であり、深刻な経済的問題になると思われます。

余震の震度はよく判りませんが、地震慣れした日本人の私でも、壁や屋根の一部が壊れた下宿先の家(1階の真ん中に有る私の部屋は大丈夫ですが)から飛び出したくなるほどの余震が数日に一度くらい有り、その他の体感余震はほぼ毎日数回有ります。

食料・水などは足りています。小学校は未だ休校しています。

日隆鎮における程度の被害は他の村にも出ていますが、特に地盤が弱い長坪村では民家の70%(昔ながらの工法で建てた石積みの民家の殆ど)が半壊したり壁や石垣が崩れるなどの大きな被害を受けました。

<sup>\*</sup>泥と小石で固めながら石を積む、昔ながらの建築方法の家のほとんどが半壊したり壁や石垣が崩れました。鉄筋コンクリートやコンクリートと小石で固めながら石を積んだ建築方法の家では被害はほとんどありませんでした。

### 震源60キロに日本人写真家 落石が車直撃、危機一髪

【成都18日共同】中国・四川大地震の震源地から西約60キロ、高山植物の名所として知られる四姑娘山近くで、震災を体験した日本人がいることが18日、分かった。写真家大川健三さん(58)で、仕事先に向かう車を落石が直撃したが、無傷だった。共同通信の電話取材に応じた。

大川さんは同山のふもと、四川省小金県日隆在住。地元の自然保護区管理局の顧問として動植物や風景を撮影し記録する仕事をしている。

12日の地震当日、山すそを車で移動中だった。「急斜面から子どもの頭ぐらいの石がごろごろと落ちてきた。揺れに気付かず、何が何だか分からなかった」

「ガッン」。落石が車に当たったが、助手席の窓と車体フレームだったので、けがはなかった。落石を避けるため車を止め、生い茂った木の中に逃げ込み、振り向くと大規模な土砂崩れでもうもうとした土煙。初めて「怖い」と感じた。現在は、震源地から西に約150キロの丹巴に避難中だ。

2008/05/18 17:57 【共同通信】



家屋からテレビ運び出し、地震報道を見る住民ら=14日、四川省小金県日隆(写真家の大川健三さん撮影・共同)

大川さん被災の記事は「共同通信」の配信で日本各地の地方紙が報じました。